

授業科目名	家庭支援論				科目コード	E3001	
担当者	田丸 尚美				履修区分	選択	
開講年次	4年	開講期	前期	授業回数	15回	単位数	2
授業の概要・到達目標							
(概要)							
<p>保育者として今なぜ家族援助が求められているか理解するために、保育という行為を子育ての営みという大きな視野から捉えなおし、家族援助の枠組みを明らかにする。社会学、心理学、福祉論を通して、家族の機能とその変遷や家族の発達と個人のライフサイクルについて学ぶ。</p> <p>児童の最善に利益にたった家族援助を追求するために保育者に求められるスキルとして、子どもと家族のアセスメント、援助計画、援助の実際と評価等、実践事例を通して学ぶ。</p>							
(到達目標)							
<p>保育者に求められる家族援助の意義と枠組みについて学び、家族の機能の変化や家族の発達についての見通しを得た上で、児童の最善の利益にたった家族援助のあり方を学ぶことを目的とする。</p>							
履修における注意事項(受講ルールなど)							
講義中の私語や携帯電話の使用は控えてください。							
授業スケジュール ※履修している学生に対して事前に説明があった上で、変更される場合があります。							
回数	講義内容						
1	保育と子育て						
2	家族援助が求められる背景(1)社会の変化						
3	家族援助が求められる背景(2)個人のライフサイクルの変化						
4	家族援助の枠組み(1)児童の最善の利益をふまえて						
5	家族援助の枠組み(2)家族の多様化をふまえて						
6	家族援助の枠組み(3)地域の社会資源を生かして						
7	家族の発達を捉える視点						
8	家族の発達(1)新婚期にかけて						
9	家族の発達(2)子どもの誕生から学童期						
10	家族の発達(3)子どもの独立から家族の収束期						
11	家族援助の対象						
12	家族援助の方法						
13	家族援助の評価						
14	保育者として実践する家族援助～在園児の事例						
15	保育者として実践する家族援助～未就園児の事例						
成績評価方法							
試験 70% レポート 30%							
ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。							
教科書							
	書名	著者	出版社	ISBNコード			
	家庭支援論	松村和子	建帛社	978-4-7679-3273			
参考書							
	書名	著者	出版社	ISBNコード			
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)							
毎回の配布資料を自分なりに管理しましょう。授業後に講義レジメや資料、ノートを読みかえてみてください。							
教員との連絡方法 ※質問・相談など時間を要する場合は、教員に事前に連絡・確認を必ず取ってください。							
オフィスパワーに研究室を訪ねてください。							

授業科目名	子育て支援論				科目コード	E3002	
担当者	石川 幸枝				履修区分	選択	
開講年次	3年	開講期	後期	授業回数	8回	単位数	1
授業の概要・到達目標							
(概要) 保育と保護者支援との関連、重要性を学び、子育て支援の意味をしっかりと理解した保育者になることをめざす。 その結果、保育をするうえで子どもたちの健全な発達保障へとつながることへの理解を深める。							
(到達目標) 1.保育所に通所している保護者と地域の保護者における子育ての現状を把握する。 2.子育て支援に関する地域社会との連携を理解し、ネットワークの充実について探求する。 3.子育て支援の具体的な支援の内容や方法について学ぶ。							
履修における注意事項(受講ルールなど)							
講義のレジュメに目を通し、質問事項や疑問に思うことを列挙して授業に参加すること。							
授業スケジュール ※履修している学生に対して事前に説明があった上で、変更される場合があります。							
回数	講義内容						
1	保育所保育指針における子育て支援						
2	子育て支援の現状(保育所に通所している保護者)						
3	子育て支援の現状(地域の保護者)						
4	公的機関の子育て支援システム						
5	子育て支援のネットワーク						
6	子育て支援の内容と連携のあり方						
7	子育て支援の課題						
8	子育て支援の展望						
成績評価方法							
レポート試験 80%、レポート提出 10%、授業への参加態度 10% ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。							
教科書							
書名	著者	出版社	ISBNコード				
保育所保育指針	厚生労働省編	フレーベル館	978-4-577-81242-6				
参考書							
書名	著者	出版社	ISBNコード				
保育者と保護者がはぐくむ「対話のちから」Q&A55	浅井春夫、石川幸枝、樋口和恵	かもがわ出版	978-7803-0204-2				
相談支援 保育相談支援	笠師千恵、小橋明子	中山書店	978-4-521-73956-4				
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)							
保育現場に45年、先輩保育者として保育現場のこと、保護者との連携の重要さなど具体的な事例をお話しながら保育の遣り甲斐・楽しさ・喜びを伝えたい。事例研究、グループ討議を取り入れます。みんなでいろんな意見を出し合い理解を深めていきましょう。							
教員との連絡方法 ※質問・相談など時間を要する場合は、教員に事前に連絡・確認を必ず取ってください。							
教務課を通して連絡の上相談に応じます。							

授業科目名	学童保育論				科目コード	E3003	
担当者	福田 敦志				履修区分	選択	
開講年次	3年	開講期	後期	授業回数	8回	単位数	1
授業の概要・到達目標							
(概要) 学童保育の発展史を批判的に検討するとともに、保護者の働く権利を保障しつつ、子どもたちの放課後の生活をともに創造していくための学童保育指導員の指導の在り様について、理論的かつ実践的に検討していく。							
(到達目標) 1.学童保育の意義と課題を理解する。 2.学童期の子どもの発達を保障する視点と方法を理解する。 3.学童保育指導員の役割や指導の在り様について、理論的かつ実践的に理解する。							
履修における注意事項(受講ルールなど)							
すべての授業に出席した上で、授業中の議論に積極的に参加してほしい。							
授業スケジュール ※履修している学生に対して事前に説明があった上で、変更される場合があります。							
回数	講義内容						
1	学童保育の誕生とその発展史						
2	学童保育をめぐる法的整備とその実態						
3	学童期の子どもの発達を保障する視点と方法① — 乳児期から幼児期の課題の克服をめぐって —						
4	学童期の子どもの発達を保障する視点と方法② — 少年期から思春期の課題の克服をめぐって —						
5	学童保育における生活の指導の視点と方法						
6	学童保育における行事の指導の視点と方法						
7	学童保育における遊びの指導の視点と方法						
8	学童保育実践の課題と展望 — まとめにかえて —						
成績評価方法							
レポート 60%と授業への参加 40%を総合して評価する。 ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。							
教科書							
	書名	著者	出版社	ISBNコード			
	(適宜、資料を配布します)						
参考書							
	書名	著者	出版社	ISBNコード			
	『荒れる子どもとガチンコ勝負』	清水結三・福田敦志	フォーラム・A	489428488X			
	『現代日本の学童保育』	日本学童保育学会	旬報社	4845112760			
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)							
学童保育をめぐって今、何が話題となっているのかを知るためにも、『学童保育研究』(日本学童保育士協会編)のバックナンバーに目を通しておくとよいかと思えます。							
教員との連絡方法 ※質問・相談など時間を要する場合は、教員に事前に連絡・確認を必ず取ってください。							
必要な場合は、教務課を通して連絡してください。							

授業科目名	生涯学習論				科目コード	E3004	
担当者	荒谷 信子				履修区分	選択	
開講年次	1年	開講期	後期	授業回数	15回	単位数	2
授業の概要・到達目標							
(概要) この授業では、生涯学習という考え方が形成された背景と生涯学習社会についての理解、さらには生涯学習社会を築くための生涯学習支援の基本や地域の実情について学習する。 また、生涯学習指導者の役割や新しい時代の生涯学習政策の方向を展望する。							
(到達目標) ① 生涯学習・学校教育・社会教育の本質と意義を理解する。 ② 生涯学習に関する法律・行政・施策、生涯学習・学校教育・社会教育等との関連、生涯学習指導者の役割、生涯学習支援の実施等について基礎的理解を深める。							
履修における注意事項(受講ルールなど)							
・成績評価は期末試験と参加状況を総合的に評価します。また、期末試験は論述形式で出題します。なお、ノートや資料の持ち込みは可。 ・講義の中に演習を取り入れます。積極的に授業に参加して下さい。 ・毎回出席確認をします。その際、講義の要点をまとめてもらいますが、要望や意見も書いて下さい。							
授業スケジュール ※履修している学生に対して事前に説明があった上で、変更される場合があります。							
回数	講義内容						
1	オリエンテーション「生涯学習社会への道」						
2	生涯学習論の社会的背景						
3	国際機関による生涯学習論の構築						
4	日本の生涯学習論						
5	生涯学習体系への移行						
6	生涯学習行政のスタートと連携・協力						
7	生涯学習と家庭教育、学校教育、社会教育						
8	学社連携・融合から学校支援へ						
9	生涯学習社会における学校経営						
10	生涯学習と学習指導要領						
11	生涯学習支援の実際(行政、大学)						
12	生涯学習支援の実際(民間、企業)						
13	生涯学習とボランティア活動						
14	生涯学習指導者(学校教育、社会教育等)の役割						
15	新しい時代に向けての生涯学習政策の方向と課題						
成績評価方法							
期末試験 50%、講義への振り返りシートの提出や講義への貢献度 50% ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。							
教科書							
	書名	著者	出版社	ISBNコード			
特になし							
参考書							
	書名	著者	出版社	ISBNコード			
	生涯学習概論	浅井 経子	理想社	978-4-650-01010-7			
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)							
レジュメと資料を配布します。順序良くファイルしておいてください。講義の流れがよく分かります。 住んでいる市や町が発行する広報誌や新聞などで生涯学習に関連した記事を収集して、生涯学習への関心を高めましょう。							
教員との連絡方法 ※質問・相談など時間を要する場合は、教員に事前に連絡・確認を必ず取ってください。							
※担当教員へ確認してください。							

授業科目名	ボランティア論				科目コード	E3005	
担当者	古澤 幸治・吉清 有三				履修区分	選択	
開講年次	1年	開講期	後期	授業回数	15回	単位数	2
授業の概要・到達目標							
(概要)							
[古澤] ボランティアは自己満足のためではなく、慈愛の精神からくる自己の犠牲によって生まれるとも言える。こうしたボランティアとはなにか、自分は何ができるか、何のためにするのかを学修する。また、職業を通じてのボランティア、自己の能力、『知・技・体』に応じたボランティアなどの大切さを学ぶ。							
[吉清] 社会が必要としているボランティアを知り、専門職のスキルを身につけ地域貢献する知識を学ぶ。							
(到達目標)							
[古澤] 自ら考えて行動し、何らかのボランティアに参加できる。またその経験を将来の職業・社会人としての成長に役立てられる能力を身につける。							
[吉清] ボランティア論を学ぶことで、問題解決能力を高め、積極性を身につける。							
履修における注意事項(受講ルールなど)							
[古澤]出席を重視するので、遅刻、早退、授業中の退出等については厳しく注意する。飲食物を机の上に置かない。その他、具体的な注意事項に関しては、初回授業時に伝達する。 教員の都合により、順番が前後することがある。							
[吉清]学生としての一般的マナー 授業の終了 10 分前にテーマ指定のレポートの提出(出席を兼ねる)があります。							
授業スケジュール ※履修している学生に対して事前に説明があった上で、変更される場合があります。							
回数	講義内容					担当者	
1	ボランティア活動とは					古澤 幸治	
2	ボランティア活動の歩み					古澤 幸治	
3	ボランティア活動の現状					古澤 幸治	
4	ボランティア活動の範囲					古澤 幸治	
5	ボランティア活動の促進					古澤 幸治	
6	ボランティア活動の意義					古澤 幸治	
7	ボランティア活動の現状とまとめ					古澤 幸治	
8	プロボノ(Pro Bono)・問題解決能力					吉清 有三	
9	災害とボランティア					吉清 有三	
10	献血支援ボランティア					吉清 有三	
11	地域とボランティア					吉清 有三	
12	江戸文化から学ぶボランティア					吉清 有三	
13	障害者支援とボランティア					吉清 有三	
14	フェア・トレード					吉清 有三	
15	平和体験学習とボランティア					吉清 有三	
成績評価方法							
各授業中でおこなう小記述レポートの内容 50%と、期末の課題(レポート)50%で評価します ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。							
教科書							
書名		著者		出版社		ISBNコード	
参考書							
書名		著者		出版社		ISBNコード	
恋するようにボランティアを		大熊 由紀子		ぶどう社		89240-094-⑦	
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)							
日々の生活の中でボランティア的行動を実行してみる。 積極的に、ボランティア活動に参加して、友人と体験を共有し、地域社会の問題点を考えてみる。 短時間で問題を解決する手段を経験する							
教員との連絡方法 ※質問・相談など時間を要する場合は、教員に事前に連絡・確認を必ず取ってください。							
メールアドレス:shimokamoto@gmail.com メールで連絡をとる場合、必ず大学・学科・学籍番号・氏名を明記する。							

授業科目名	特別なニーズ教育および保育論				科目コード	E3006	
担当者	児嶋 芳郎				履修区分	必修	
開講年次	1年	開講期	後期	授業回数	15回	単位数	2
授業の概要・到達目標							
(概要) 特別な教育的ニーズとはどういったものかを理解するとともに、障害(知的障害、身体障害、発達障害等)のある子どもやその他(虐待等)の子どもの障害等の特徴と指導における配慮点、学校や幼稚園・保育所における指導のあり方について具体的な事例等を通じて、実践的に学ぶ。							
(到達目標) ・各障害種等の特徴について理解する ・各障害種等に対する指導上の配慮点を理解する ・実際の指導場面において、講義内容を踏まえ、適切な指導方法を構想することができるようになる							
履修における注意事項(受講ルールなど)							
授業中の私語は禁止。携帯電話・スマートホンの使用はもとより、机の上に置かない。							
授業スケジュール ※履修している学生に対して事前に説明があった上で、変更される場合があります。							
回数	講義内容						
1	特別なニーズ教育とは何か？						
2	障害等の特徴と指導上の配慮点①(視覚・聴覚障害)						
3	障害等の特徴と指導上の配慮点②(知的障害)						
4	障害等の特徴と指導上の配慮点③(自閉症)						
5	障害等の特徴と指導上の配慮点④(肢体不自由)						
6	障害等の特徴と指導上の配慮点⑤(病弱・身体虚弱)						
7	障害等の特徴と指導上の配慮点⑥(LD)						
8	障害等の特徴と指導上の配慮点⑦(ADHD)						
9	障害等の特徴と指導上の配慮点⑧(重症児)						
10	障害等の特徴と指導上の配慮点⑨(虐待児)						
11	障害児教育・保育制度の変遷と現状						
12	障害児教育・保育実践の実際と指導法の特徴①(特別支援学校・専門施設)						
13	障害児教育・保育実践の実際と指導法の特徴②(通常の学校・保育所等)						
14	家族・きょうだいへの援助の実際と配慮点						
15	講義の総括						
成績評価方法							
期末試験 60%、レポート 40% ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。							
教科書							
	書名	著者	出版社	ISBNコード			
	保育者のためのテキスト障害児保育	近藤直子・白石正久・中村尚子 編	全障研出版部	978-4-88134-125-4			
参考書							
	書名	著者	出版社	ISBNコード			
	どうして？教えて！発達障害の理解	奥住秀之	全障研出版部	978-4-88134-155-1			
	特別支援学校学習指導要領						
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)							
次回の講義範囲を予習し講義に臨むこと。また、講義後は必ずポイントとなる部分を復習し、知識の習得に努めること。							
教員との連絡方法 ※質問・相談など時間を要する場合は、教員に事前に連絡・確認を必ず取ってください。							

授業科目名	療育 I				科目コード	E3007	
担当者	中條 晶子				履修区分	必修	
開講年次	3年	開講期	前期	授業回数	15回	単位数	2
授業の概要・到達目標							
(概要) 小児領域の言語聴覚療法が対象とするこどもの特性を知り、保育や教育の現場での対応を学ぶ。							
(到達目標) 1.小児領域の言語聴覚療法の実際を把握し、対象となるこどもの特性を理解する。 2.小児領域の言語聴覚療法で対象となるこどもへの療育的対応の内容と方法を学ぶ。 3.療育にかかわる関係機関の把握と関係者との連携を理解する。							
履修における注意事項(受講ルールなど)							
配布資料について、予備の配布は行いませんので、紛失等した場合は、各自の責任において、他の学生からコピー等をしてもらってください。							
授業スケジュール ※履修している学生に対して事前に説明があった上で、変更される場合があります。							
回数	講義内容						
1	言語聴覚療法とは						
2	言語聴覚療法の実態						
3	関係機関との連携						
4	乳児期の言語聴覚療法的課題						
5	幼児期の言語聴覚療法的課題						
6	学童期の言語聴覚療法的課題						
7	言語聴覚療法の実際1 聞こえの問題に対して						
8	言語聴覚療法の実際2 発音の問題に対して						
9	言語聴覚療法の実際3 話しことばの遅れに対して						
10	言語聴覚療法の実際4 指示理解の問題に対して						
11	言語聴覚療法の実際5 読み書きの問題に対して						
12	言語聴覚療法の実際6 吃音に対して						
13	言語聴覚療法の実際7 食事の問題に対して						
14	家族の援助と支援のあり方						
15	まとめ						
成績評価方法							
期末試験 100% ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。							
教科書							
	書名	著者	出版社	ISBNコード			
参考書							
	書名	著者	出版社	ISBNコード			
事前の購入は必要としない。							
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)							
授業後に配布資料に目を通し、どのような情報がどこに載っているかがわかるようにする。							
教員との連絡方法 ※質問・相談など時間を要する場合は、教員に事前に連絡・確認を必ず取ってください。							
連絡先メールアドレス pedt@hiroshima-wsc.jp(件名に中條宛であることを明記してください)							

授業科目名	療育Ⅱ				科目コード	E3008	
担当者	森川 敦子				履修区分	必修	
開講年次	3年	開講期	後期	授業回数	15回	単位数	2
授業の概要・到達目標							
(概要) 初回講義時に説明します。							
(到達目標) 1. 作業療法に関する歴史をふまえ、作業療法の今日的意義を理解する。 2. 作業療法の実際を把握し、療育的対応の内容と方法を学ぶ。 3. 作業療法における家族の理解、家族の援助と連携のあり方を学ぶ。 4. 療育にかかわる連携機関の把握と関係者との連携を理解する							
履修における注意事項(受講ルールなど)							
初回講義時に説明します。							
授業スケジュール ※履修している学生に対して事前に説明があった上で、変更される場合があります。							
回数	講義内容						
1	作業療法の理論の歴史の変遷						
2	作業療法倫理						
3	作業療法管理学						
4	発達過程から作業療法をみる						
5	身体機能作業療法						
6	身体機能作業療法の実際						
7	精神機能作業療法						
8	精神機能作業療法の実際						
9	発達過程作業療法						
10	発達過程作業療法の実際						
11	高次脳機能作業療法						
12	高次脳機能作業療法の実際						
13	日常生活の援助方法						
14	予防的作業療法						
15	地域との連携機関						
成績評価方法							
初回講義時に説明します。 ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。							
教科書							
	書名	著者	出版社	ISBNコード			
参考書							
	書名	著者	出版社	ISBNコード			
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)							
教員との連絡方法 ※質問・相談など時間を要する場合は、教員に事前に連絡・確認を必ず取ってください。							

授業科目名	病弱児保育論				科目コード	E3009	
担当者	福田 順				履修区分	必修	
開講年次	2年	開講期	後期	授業回数	15回	単位数	2
授業の概要・到達目標							
(概要) 病気に罹患した子どもの状態を把握し、その子どもたちの身体的精神的状態について学びます。 そのうえで、病気を抱える子どもたちへの保育、授業のあり方、日常の保育、学校生活の中での対応や援助方法などを、具体的な事例を参考に考えていきます。							
(到達目標) ・病気の子どもたちの心と身体、そしてその家族はどんな状況にいるのかを理解する。 ・病気の子どもたちへの保育や授業のありかた、援助方法、家族との関わりかた、家族への援助内容などを考えられるようになる。							
履修における注意事項(受講ルールなど)							
テキストは使用しないで、毎回プリントを配布し講義を進めます。配布資料については予備の配布は行いませんので、欠席/紛失の場合には、各自の責任において他学生からコピーしてもらってください。							
授業スケジュール ※履修している学生に対して事前に説明があった上で、変更される場合があります。							
回数	講義内容						
1	病弱・身体虚弱児とは						
2	病気が子どもの心と身体に及ぼす影響						
3	子どもの病気が家族に及ぼす影響						
4	Child life specialist Clini clown						
5	病児保育、特別支援学校/教室など						
6	院内学級について						
7	言語聴覚士さんのお話						
8	アレルギー疾患の基本的知識 生活管理指導表						
9	アレルギーの子どもへの対応 事例紹介						
10	事例検討～てんかんの子どもへの支援						
11	事例検討～心疾患・腎疾患の子どもへの支援						
12	事例検討～糖尿病の子どもへの支援						
13	事例検討～心身症の子どもへの支援						
14	事例検討～ダウン症の子どもへの支援						
15	まとめ						
成績評価方法							
期末試験 50%、学期途中のレポート 25%、グループワークへの参加度 25%で総合的に評価します。 ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。							
教科書							
	書名	著者	出版社	ISBNコード			
使用しません							
参考書							
	書名	著者	出版社	ISBNコード			
適宜ご紹介します							
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)							
日頃から、新聞や雑誌などの中で病気の子どものに関するニュース、病気の子どものに関する政策、取り巻く環境の問題点などを意識して読み、いろいろと考えてみてください。							
教員との連絡方法 ※質問・相談など時間を要する場合は、教員に事前に連絡・確認を必ず取ってください。							
毎回の講義終了時にご質問ください							

授業科目名	発達障害カウンセリング論				科目コード	E3010	
担当者	田丸 尚美				履修区分	必修	
開講年次	4年	開講期	前期	授業回数	15回	単位数	1
授業の概要・到達目標							
(概要) 発達障害を抱えた子どもの発達の過程や生活上の困難感を理解し、発達支援の方法について、それぞれのライフステージや地域における多様な支援の実際を通して学ぶ。また、発達障害を抱えた子どもの保護者の子育てについて知り、共感的理解に基づいた子育て支援や相談のあり方を習得する。							
(到達目標) 発達障害について気づき、発達の特徴や障害特性が把握されるまでのアセスメントの方法や発達支援のあり方を身につけるとともに、保護者の障害受容に寄り添って子育てを支援するための関係づくりを生かすカウンセリングマインドを習得する。							
履修における注意事項(受講ルールなど)							
資料や文献をよく読み、発表や意見交換に備えよう							
授業スケジュール ※履修している学生に対して事前に説明があった上で、変更される場合があります。							
回数	講義内容						
1	障害を抱える子どもの子育て						
2	障害を抱える子の保護者を理解する～障害受容段階論と螺旋モデル						
3	障害を抱える子の保護者を理解する～子育て支援モデルへの転換						
4	乳幼児期の発達支援 支援の入り口としての乳幼児健診						
5	乳幼児健診における発達アセスメント						
6	親子関係を支える支援						
7	保育園・幼稚園における支援						
8	コンサルテーションと保護者との関係づくり						
9	就学移行期の相談						
10	学童期の子ども理解と指導						
11	小学校への順回相談とインクルーシブ教育						
12	学童期の保護者への相談支援						
13	学童保育と個別指導における支援						
14	地域における発達支援システムと子育て支援						
15	まとめ						
成績評価方法							
レポート70%、討論参加30% ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。							
教科書							
	書名	著者	出版社	ISBNコード			
	子どもの障害をどう受容するか	中田洋二郎	大月書店	978-4-272-40317			
	発達障害児の発達支援と子育て支援	瓜生淑子ほか	かもがわ出版	978-4-7803-0830			
参考書							
	書名	著者	出版社	ISBNコード			
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)							
自分の担当した文献について相手に伝わるように報告する準備をして臨んでください。							
教員との連絡方法 ※質問・相談など時間を要する場合は、教員に事前に連絡・確認を必ず取ってください。							
オフィスパワーに、研究室を訪ねてください。							

授業科目名	障害児教育				科目コード	E3011	
担当者	児嶋 芳郎				履修区分	必修	
開講年次	3年	開講期	前期	授業回数	15回	単位数	2
授業の概要・到達目標							
(概要)							
①障害の概念と権利保障の動向について概説する							
②障害児への教育の歴史・現状・課題についていくつかのピックを取り上げ、概説する							
③いくつかの障害の特徴について取り上げ、概説する							
④障害児への教育課程編成の特徴について概説する							
⑤障害児への授業方法の特徴について概説する							
(到達目標)							
①障害の概念及び特徴の基本的知識を理解する							
②障害児への授業を構想する際に押さえておかなければならない特徴について理解する							
③今後の障害児への教育のあり方について考えることができるようになる							
履修における注意事項(受講ルールなど)							
講義中の私語は禁止。携帯電話・スマートホンの使用はもとより、机の上に置かない。							
配布資料について、予備の配布は行わない。							
授業スケジュール ※履修している学生に対して事前に説明があった上で、変更される場合があります。							
回数	講義内容						
1	障害とは何か① —ICIDH 及び ICF などによる国際的な障害概念						
2	障害とは何か② —日本の関連法にみる障害						
3	障害児教育の歴史① —障害児教育の成り立ちから養護学校義務制まで						
4	障害児教育の歴史② —「特殊教育」から「特別支援教育」への転換						
5	教育的配慮点① —視覚障害及び聴覚障害						
6	教育的配慮点② —知的障害及び肢体不自由、病弱						
7	教育的配慮点③ —発達障害(学習障害、注意欠陥多動性障害、自閉症など)						
8	障害児の学校教育の場の特徴① —特別支援学校の特徴						
9	障害児の学校教育の場の特徴② —特別支援学級の特徴						
10	障害児の学校教育の場の特徴③ —「通級による指導」及び通常学級						
11	特別支援学校学習指導要領の特徴						
12	特別支援学校の教育課程編成の特徴と実際の授業実践						
13	特別支援学級及び「通級による指導」の教育課程編成の特徴と実際の授業実践						
14	通常学校における「合理的配慮」の提供及び「交流及び共同学習」の特徴と実際の授業実践						
15	障害児への教育の今後の課題・展望と講義のまとめ						
成績評価方法							
期末試験 60%、レポート 40%							
ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。							
教科書							
	書名	著者	出版社	ISBNコード			
なし、資料を適時配布する							
参考書							
	書名	著者	出版社	ISBNコード			
	特別支援学校学習指導要領解説 (総則等編)	文部科学省	海文堂出版	978-4-31630-016-0			
	特別支援学校学習指導要領解説 (自立活動編)	文部科学省	海文堂出版	978-4-30312-432-8			
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)							
次回の講義範囲を予習し講義に臨むこと。また、講義後はポイントとなる部分を復習し、知識の習得に努めること。							
教員との連絡方法 ※質問・相談など時間を要する場合は、教員に事前に連絡・確認を必ず取ってください。							

授業科目名	医療福祉カウンセリング論				科目コード	E3012	
担当者	古御堂 正				履修区分	必修	
開講年次	4年	開講期	前期	授業回数	8回	単位数	1
授業の概要・到達目標							
(概要) 医療福祉の思想、歴史に基づき人間存在を据えなおし、人間、福祉、子どもたち、障がい児・者に必要な医療と福祉のありようを考察する。							
(到達目標) カウンセリング、相談、支援、援助とは、何を必要とし、医療カウンセリング、福祉の視点を学ぶ。							
履修における注意事項(受講ルールなど)							
ロールプレイを行います。演じる、考える、助言する等を実践しますが、答は一つではありませんので、発言すること。間違いと決めつけず、自己を見つめなおし、就職して生きる実践力をつけましょう。							
授業スケジュール ※履修している学生に対して事前に説明があった上で、変更される場合があります。							
回数	講義内容						
1	オリエンテーション、ロールプレイ、改めて自己紹介						
2	演習、ロールプレイ、自己理解、他者理解、個人療法						
3	医療・福祉の歴史、一問一答						
4	演習、集団療法、レクの立案からの治療とは、教育とは						
5	カウンセリングの実例、子ども、思春期、虐待、重度障害児等						
6	カウンセリングの実例、障がい、精神、発達障害、自閉症、LGBT、自殺等						
7	カウンセリングの実例、依存症、高齢者、ターミナルケア、死、倫理観等						
8	まとめ						
成績評価方法							
平常点 50%、レポート、感想文、小テストなど 50% ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。							
教科書							
	書名	著者	出版社	ISBNコード			
	なし						
参考書							
	書名	著者	出版社	ISBNコード			
	なし						
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)							
ほぼ毎回、設題ロールプレイ、一問一答、ロールプレイした後に感想等を実施します。毎回の配布資料を紛失しないこと。 自己を振り返る、保育者としての考察、時には障がいがある子どもたちに医療支援、福祉サービスへの橋渡し、連携について考える、振り返る機会とする。							
教員との連絡方法 ※質問・相談など時間を要する場合は、教員に事前に連絡・確認を必ず取ってください。							

授業科目名	小児保健学概論				科目コード	E3013	
担当者	未定				履修区分	必修	
開講年次	3年	開講期	前期	授業回数	8回	単位数	1
授業の概要・到達目標							
(概要) 小児は、成人と異なり、発育に応じて注意すべき疾患や精神的発育に留意する必要がある。発育過程における精神・身体的特徴を概説し、各々の時期における注意すべき疾病・障害とその対応を、一方的な情報提示ではなく、議論を通じて理解していただく。							
(到達目標) 1. 子どもの疾病の予防、健康の維持・増進、健康の回復に向けての専門的な知識や技術を習得する。 2. 乳幼児、児童の発達に即して形態的、機能的、心理社会的側面の成長発達過程や子どもの病気の特徴と対応など基礎知識を学習する。 3. 子どもの健康問題と子どもを取り巻く環境との相互関係について、医療的知見から理解する。							
履修における注意事項(受講ルールなど)							
授業スケジュール ※履修している学生に対して事前に説明があった上で、変更される場合があります。							
回数	講義内容						
1	健康と疾病						
2	子どもの疾病のメカニズム						
3	乳児期における健康問題						
4	幼児期における健康問題						
5	児童期における健康問題						
6	子どもの病気の特徴と対応						
7	小児医学からの検討						
8	まとめ						
成績評価方法							
初回講義時に説明します。 ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。							
教科書							
	書名	著者	出版社	ISBNコード			
参考書							
	書名	著者	出版社	ISBNコード			
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)							
第1回目の授業の際、今後の方針について説明します。							
教員との連絡方法 ※質問・相談など時間を要する場合は、教員に事前に連絡・確認を必ず取ってください。							

授業科目名	児童ソーシャルワーク				科目コード	E3014	
担当者	山田 修三				履修区分	選択	
開講年次	3年	開講期	前期	授業回数	8回	単位数	1
授業の概要・到達目標							
(概要) 子どもや親等に対して、人権の尊重、自立支援、家庭支援という視点を大切にしながら、より良い人間関係を形成し、クライアントが抱える悩みや不安等を自分自身で解決できるように支援することが求められています。そのための理論と技法を事例を通して学びます。							
(到達目標) 1. 子どもにおける現代社会の諸問題(少年非行、犯罪、いじめ、虐待、ネグレクト)を理解する。 2. 子どもに関する諸問題への対応の方法や法令との関連について学ぶ。 3. 実際の事例を通して具体的に検討できる能力を養う。							
履修における注意事項(受講ルールなど)							
①学籍番号順の配席とします。 ②資料配布は、当日、配布します。 ③参考資料もその都度、配布します。							
授業スケジュール ※履修している学生に対して事前に説明があった上で、変更される場合があります。							
回数	講義内容						
1	オリエンテーション						
2	少年非行・犯罪の実際						
3	いじめの実際						
4	虐待、ネグレクトの実際						
5	事例検討(少年非行、犯罪)						
6	事例検討(いじめ)						
7	事例検討(虐待、ネグレクト)						
8	子どもの問題行動に対する対応と保護者支援						
成績評価方法							
①ショートテスト 30% ②最終日のテスト 70% ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。							
教科書							
	書名	著者	出版社	ISBNコード			
	なし						
参考書							
	書名	著者	出版社	ISBNコード			
	なし						
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)							
①集中講義となりますので、1日目の最後に講義資料から復習を兼ねて簡易テストを実施します。 ②実習や新聞記事等から講義内容について、自分なりの考えを整理しておいて下さい。							
教員との連絡方法 ※質問・相談など時間を要する場合は、教員に事前に連絡・確認を必ず取ってください。							
E-mail:yamada-sh@yasuda-u.ac.jp							

授業科目名	QOL 概論				科目コード	E3015	
担当者	平岩 和美				履修区分	選択	
開講年次	3年	開講期	後期	授業回数	8回	単位数	1
授業の概要・到達目標							
(概要) QOLとは“生活の質、人生の質、生の質”と訳され、“QOL(キュー・オー・エル)”, “クオリティ・オブ・ライフ”と表現されます。QOLは、心身の健康度、良好な人間関係、仕事や家庭生活の充実感、レクリエーションやレジャー活動など様々な観点からとらえられています。この授業では、病気の子どもだけでなく、すべての人の心身の健康を包括的に考えます。							
(到達目標) QOLとは何かを説明できる。子どものQOLの維持向上に必須な条件をいくつか上げることが出来る。自らのQOLについて客観的にとらえることができる。							
履修における注意事項(受講ルールなど)							
配布資料に授業内容を書き込んでください。私語、携帯電話の使用を禁止します。授業中行う課題は評定に入りますので欠席しないこと。							
授業スケジュール ※履修している学生に対して事前に説明があった上で、変更される場合があります。							
回数	講義内容						
1	QOLの概要、主観的・客観的な指標						
2	基本的欲求とQOL						
3	発達課題とQOL						
4	生活習慣とQOL						
5	環境とQOL						
6	ICF(国際生活機能分類)とQOL						
7	子どもにみられる疾患とQOL						
8	チームによる支援						
成績評価方法							
期末試験 80%、課題 20% ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。							
教科書							
	書名	著者	出版社	ISBNコード			
配布資料							
参考書							
	書名	著者	出版社	ISBNコード			
	子どものQOL尺度その理解と活用	古荘 純一・他	治療と診断社	9784787820907			
	子ども期の養育環境とQOL	菅原ますみ	金子書房	9784760895342			
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)							
A4 ファイルを用意し配布資料を閉じてください。							
教員との連絡方法 ※質問・相談など時間を要する場合は、教員に事前に連絡・確認を必ず取ってください。							
hiraiwa@hcu.ac.jp 西風新都キャンパス 健康科学部リハビリテーション学科理学療法専攻 309 研究室							

授業科目名	初等教育実習事前事後指導				科目コード	E3016	
担当者	杉山 直子・森下 真実				履修区分	選択	
開講年次	3年	開講期	通年	授業回数	15回	単位数	2
授業の概要・到達目標							
(概要) 初等教育実習では、幼児教育・小学校教育についての大学での理論的な学びを、幼稚園・小学校で具体的体験を通して深める。そのために初等教育実習事前事後指導では、①実習に向かう構えをつくること、②実習記録や指導計画について具体的に学ぶこと、③実習をふり返り次の実習へ向けた課題を明確にすることをを行う。							
(到達目標) 保育者・教育者として実習に取り組むために、以下のことを身につける。 ①保育者・教育者としての基本的な態度・構えや技術 ②実習を通して自己をふり返り課題を明確にする力。							
履修における注意事項(受講ルールなど)							
授業スケジュール ※履修している学生に対して事前に説明があった上で、変更される場合があります。							
回数	講義内容						
1	オリエンテーション						
2	実習に向けた自己課題の設定						
3	実習記録について① 実習記録の意義を理解する						
4	実習記録について② 事例等を用い実際に実習記録をとる						
5	指導計画について① 指導計画の意義を理解する						
6	指導計画について② 実際に指導計画を立案する						
7	部分実習に向けて① 前半グループの模擬保育会を行う						
8	部分実習に向けて② 後半グループの模擬保育会を行う						
9	実習に向けて						
10	事後指導① 実習の自己評価を行う						
11	事後指導② 実習報告会で自分の実習を発表することにより、他の実習を理解し自己のふり返りを行う						
12	事後指導③ 自己課題の確認を行う						
13	事後指導④ 次の実習へ向けた目標の設定を行う						
14	事後指導⑤ 自身の目標設定をもとに、次の実習先の検討を行う						
15	まとめ						
成績評価方法							
授業の提出物 80%、発表 20% ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。							
教科書							
書名		著者		出版社		ISBNコード	
幼稚園・保育所・認定こども園への教育・保育実習の手引き		西川ひろ子 杉山直子 (編)		溪水社		978-4863273351	
参考書							
書名		著者		出版社		ISBNコード	
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)							
保育内容 5 領域の内容をふり返り、保育・教育課程を理解し、総合的に捉えておいてください。また、保育内容5領域の授業計画を実践化しておいてください。							
教員との連絡方法 ※質問・相談など時間を要する場合は、教員に事前に連絡・確認を必ず取ってください。							

授業科目名	初等教育実習 I				科目コード	E3017	
担当者	杉山直子・森下真実				履修区分	選択	
開講年次	3年	開講期	通年	実習期間	90時間	単位数	2
実習の概要・到達目標							
(概要) 幼児教育についての大学での理論的な学びを、幼稚園で具体的体験を通して深める。内容は、①幼稚園を学ぶ(環境を理解し構成する)②幼児を学ぶ(幼児の発達段階や個々の独自性を具体的に理解し、保育・教育活動のあり方を学ぶ)③保育者を学ぶ(保育者の仕事や役割を理解し、実践をする)ことを、実習に参加をしながら行う。さらに、指導案を作成し、部分実習を行う。							
(到達目標) 保育者として、以下のことについて具体的な実践力を身につける。①幼稚園の教育課程を意識して活動する ②幼児を理解し、保育・教育的な働きかけができる ③保育者を理解し、保育者としての実践を部分的にできる。							
実習先行要件(下記に示す科目の全てについて、単位修得または単位修得見込みの場合のみ履修可能)							
(履修済の科目) ・2年生後期までに開講されている「幼稚園・小学校教諭一種免許状」取得のために必要な授業科目を履修し、9割以上の単位を取得していること ・初等教育実習事前事後指導							
履修における注意事項(受講ルールなど)							
実習園でのオリエンテーションの内容を理解し、準備をしておくこと。 実習園での指導を真摯に受け止めて誠実な態度で実習を行うこと。							
実習スケジュール ※履修している学生に対して事前に説明があった上で、変更される場合があります。							
6月において、幼稚園における実習を下記のスケジュールで行う。 ・実習園でのオリエンテーション ・実習参加 実習時には、大学教員による訪問指導を行う。							
成績評価方法							
実習園の評価と教育実習の記録によって行う。							
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)							
教員との連絡方法 ※質問・相談など時間を要する場合は、教員に事前に連絡・確認を必ず取ってください。							

授業科目名	初等教育実習Ⅱ				科目コード	E3018	
担当者	杉山直子・森下真実				履修区分	選択	
開講年次	3・4年	開講期	通年	実習期間	180時間	単位数	4
実習の概要・到達目標							
(概要)							
○初等教育コース 小学校教育についての大学での理論的な学びを、小学校で具体的体験を通して深める。内容は、①小学校を学ぶ②児童を学ぶ③教師を学ぶことを、実習に参加をしながら行う。さらに、指導案を作成し、授業実習・研究授業を行う。							
○保育・幼児教育コース 初等教育実習Ⅰの幼稚園での実習をふまえて、幼稚園での具体的体験を通してさらなる実践力を身につける。部分実習に加え、全日実習を行う。							
(到達目標)							
○初等教育コース 教育者として、以下のことについて具体的な実践力を身につける。①小学校の教育課程を理解し、それに基づき活動する②児童および学級集団を理解し、教育的な働きかけができる③教師を理解し、教師としての実践ができる。							
○保育・幼児教育コース 保育者として、以下のことについて具体的な実践力を身につける。①幼稚園の教育課程を理解し、それに基づき活動する②幼児および学級集団を理解し、保育・教育的な働きかけができる③保育者を理解し、保育者としての実践が全体的にできる。							
実習先行要件(下記に示す科目の全てについて、単位修得または単位修得見込みの場合のみ履修可能)							
(履修済の科目)							
・3年生前期に開講されている「幼稚園・小学校教諭一種免許状」取得のために必要な授業科目を履修し、9割以上の単位を取得していること。							
・初等教育実習事前事後指導							
・介護等体験Ⅰ、介護等体験Ⅱ(事前・事後指導)※初等教育コースのみ							
履修における注意事項(受講ルールなど)							
実習園・実習校でのオリエンテーションの内容を理解し、準備をしておくこと。							
実習園・実習校での指導を真摯に受け止めて誠実な態度で実習を行うこと。							
実習スケジュール ※履修している学生に対して事前に説明があった上で、変更される場合があります。							
○初等教育コース 3年次の10・11月において、小学校における実習を下記のスケジュールで行う。 ・実習校でのオリエンテーション ・実習参加(授業参観・授業実習・研究授業などを行う)							
○保育・幼児教育コース 4年次の5月下旬～6月上旬において、幼稚園における実習を下記のスケジュールで行う。 ・実習園でのオリエンテーション ・実習参加							
※なお、いずれも実習時には、大学教員による訪問指導を行う。							
成績評価方法							
実習園・実習校の評価と教育実習の記録によって行う。							
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)							
教員との連絡方法 ※質問・相談など時間を要する場合は、教員に事前に連絡・確認を必ず取ってください。							

授業科目名	介護等体験 I				科目コード	E3019	
担当者	児嶋 芳郎				履修区分	※下記参照	
開講年次	2年	開講期	通年	実習期間	7日間	単位数	1
実習の概要・到達目標							
(概要) 教員が個人の尊厳及び社会連帯の理念に関する認識を深めることの重要性にかんがみ、教員の資質向上及び学校教育の一層の充実を図る観点から、小学校教諭の普通免許状取得希望者に特別支援学校及び福祉施設や老人保健施設等での介護等体験を行わせることとした法律に対応した必修科目である。 そのため、介護等体験の目的、意義、内容・方法などについて基礎的な知識を習得させる。							
(到達目標) ○ 特別支援学校及び福祉施設や老人保健施設等が設置されている目的・意義を理解し、そこに勤務する職員の役割について理解する。 ○ 障害者及び高齢者等に対する介護・介助及び交流等の経験を行うとともに、その意義等を理解する。							
履修における注意事項(受講ルールなど)							
小学校教諭の普通免許状を取得する者であること。 ※コースによって「科目区分」が違います。よく確認してから、履修登録を行ってください。 【小学校教育コース:必修科目、初等教育コース:必修科目、保育・幼児教育コース:選択科目】							
実習スケジュール ※履修している学生に対して事前に説明があった上で、変更される場合があります。							
第1日目	社会福祉施設の理解と留意点等(各施設等関係者による)						
第2日目	社会福祉施設での体験活動(5日間のうちの1日目)						
第2日目	社会福祉施設での体験活動(5日間のうちの2日目)						
第3日目	社会福祉施設での体験活動(5日間のうちの3日目)						
第4日目	社会福祉施設での体験活動(5日間のうちの4日目)						
第5日目	社会福祉施設での体験活動(5日間のうちの5日目)						
第6日目	特別支援学校の理解と留意点等(各学校関係者による)						
	特別支援学校での体験活動(2日間のうちの1日目)						
第7日目	特別支援学校での体験活動(2日間のうちの2日目)						
成績評価方法							
臨地実習要項の評価表に基づき評価する							
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)							
教職関連科目であることを認識すること。また、社会福祉や特別支援教育の実情を学び、小学校教員としての資質を高めるため、介護等体験活動を今後の教育活動にどう生かしていくかを考えること。							
教員との連絡方法 ※質問・相談など時間を要する場合は、教員に事前に連絡・確認を必ず取ってください。							
担当教員から個別に連絡方法(Eメール・オフィスパワー等)を示します。							

授業科目名	介護等体験Ⅱ(事前・事後指導)				科目コード	E3020	
担当者	児嶋 芳郎				履修区分	※下記参照	
開講年次	2年	開講期	通年	授業回数	8回	単位数	1
授業の概要・到達目標							
(概要) 介護等体験が、小学校教諭普通免許状取得の要件になっていることの意味を理解させる。また、特別支援学校及び福祉施設や老人保健施設等での支援内容・方法等について学生に自ら考えさせ、教育者に必要な豊かな人間性を養うとともに、介護等体験が円滑に行えるよう、実習の目的・意義や必要性について理解を深めさせる。							
(到達目標) ○ 特別支援学校及び福祉施設・老人保健施設等で体験することの意味及び影響等について十分理解する。 ○ 介護等の体験を通して、自分の考え方をまとめて発表出来るようになる。							
履修における注意事項(受講ルールなど)							
小学校教諭の普通免許状を取得する者であること。 ※コースによって「科目区分」が違います。よく確認してから、履修登録を行ってください。 【小学校教育コース:必修科目、初等教育コース:必修科目、保育・幼児教育コース:選択科目】							
授業スケジュール ※履修している学生に対して事前に説明があった上で、変更される場合があります。							
回数	講義内容						
1	事前指導:ガイダンス(現代社会における福祉及び介護等の現状について 介護等体験の目的・意義、進め方等)						
2	事前指導:特別支援学校のガイダンス 教員免許特例法と今後の手続き等について						
3	事前指導:「合同事前指導」への参加						
4	事前指導:福祉施設や老人保健施設等のガイダンス 社会福祉施設の理解と留意点等(各施設等関係者による)						
5	事後指導:学生による体験発表①						
6	事後指導:学生による体験発表②						
7	事後指導:学生による体験発表③						
8	事後指導:総まとめの講義						
成績評価方法							
体験活動日誌 50% 事後レポート 50%とする。 ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。							
教科書							
	書名	著者	出版社	ISBNコード			
参考書							
	書名	著者	出版社	ISBNコード			
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)							
介護等の体験活動の意義・目的等を十分理解した上で実習に臨むこと。また、その体験を今後の教育活動にどう生かしていくかを考えること。							
教員との連絡方法 ※質問・相談など時間を要する場合は、教員に事前に連絡・確認を必ず取ってください。							
担当教員から個別に連絡方法(Eメール・オフィスアワー等)を示します。							

授業科目名	保育実習Ⅰ				科目コード	E3021	
担当者	石橋由美・深澤悦子				履修区分	選択	
開講年次	3年	開講期	通年	実習時間	180時間	単位数	4
実習の概要・到達目標							
(概要) 保育についての大学での理論的な学びを、保育所または幼保連携型認定こども園とそれ以外の居住型児童福祉施設等での具体的体験を通して深める。							
(到達目標) ①実習施設の生活に参加し、実習施設の役割について具体的に理解する。 ②観察や子どものかかわりを通して子ども理解を深める。 ③保育の計画、支援計画、観察、記録、記録に基づく省察・自己評価について具体的に理解する。 ④生活や遊びの一部分を担当し、保育技術・養護技術を習得する。 ⑤家庭や地域社会との連携について理解する。 ⑥保育士の業務内容、役割分担、チームワーク、職業倫理や子どもの最善の利益を具体化する方法について学ぶ。 ⑦安全及び疾病予防への配慮について学ぶ。							
実習先行要件(下記に示す科目の全てについて、単位修得または単位修得見込みの場合のみ履修可能)							
(単位修得済の科目) ・2年後期修了までに、告示別表第1による教科目のうち、42単位以上取得していること							
(履修済の科目) ・保育実習事前事後指導Ⅰ							
履修における注意事項(受講ルールなど)							
実習スケジュール ※履修している学生に対して事前に説明があった上で、変更される場合があります。							
8～9月 保育所・幼保連携型認定こども園における実習(12日) ・実習施設でのオリエンテーション ・実習参加 ・実習内容(保育所・幼保連携型認定こども園の役割、子ども理解、保育内容・保育環境、保育の計画・記録・省察・自己評価、保育所保育士の業務内容と職業倫理)							
10月 母子生活支援施設、障害児入所施設、児童発達支援センター、障害者支援施設、児童養護施設における実習(12日) ・実習施設でのオリエンテーション ・実習参加 ・実習内容(施設の役割、子ども理解、養護内容・生活環境、支援計画・記録・省察・自己評価、施設保育士の業務内容と職業倫理)							
実習参加時には、大学教員による訪問指導を行う。							
成績評価方法							
実習施設での評価(70%)と提出物(保育実習日誌など)(30%)によって行う。							
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)							
実習施設でのオリエンテーションの内容を理解し、実習の事前準備を十分してください。							
教員との連絡方法 ※質問・相談など時間を要する場合は、教員に事前に連絡・確認を必ず取ってください。							
授業開始時に伝えます。							

授業科目名	保育実習事前事後指導Ⅰ				科目コード	E3022	
担当者	石橋 由美・深澤 悦子				履修区分	選択	
開講年次	3年	開講期	通年	授業回数	15回	単位数	2
授業の概要・到達目標							
(概要) 保育実習では、保育についての大学での理論的な学びを、保育所・幼保連携型認定こども園とそれ以外の居住型児童福祉施設等で具体的体験を通して深める。そのために保育実習事前事後指導Ⅰでは、①実習に向かう構えをつくること、②実習記録や指導計画・支援計画について具体的に学ぶこと、③実習をふり返り次の実習へ向けた課題を明確にすることを行う。							
(到達目標) ①保育実習の意義・目的・内容・方法を理解し、実習における自らの課題を明確にする。 ②実習の心構え、実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務について理解する。 ③実習における観察、記録、省察・自己評価の方法について具体的に理解する。 ④実習の事後指導を通して、実習を総括し、自己をふり返り、新たな課題と学習目標を明確にする。							
履修における注意事項(受講ルールなど)							
欠席をしないこと							
授業スケジュール ※履修している学生に対して事前に説明があった上で、変更される場合があります。							
回数	講義内容						
1	オリエンテーション、保育実習の意義、目的、内容、方法						
2	実習の留意事項(子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務、実習生の心構え)						
3	保育所・幼保連携型認定こども園での実習内容と自己課題の明確化						
4	実習における指導計画と実践、実習記録の意義						
5	実習における観察、記録、省察・自己評価						
6	実習に向けて① 前半グループの模擬保育会を行う						
7	実習に向けて② 後半グループの模擬保育会を行う						
8	事後指導① 実習内容の確認、実習の自己評価						
9	事後指導② 実習報告会で自分の実習を発表し、他の実習を理解し、自己をふり返り、新たな課題を明確にする						
10	母子生活支援施設、障害児入所施設、障害者支援施設、児童養護施設における実習内容と自己課題の明確化						
11	実習施設の役割、養護内容、支援計画						
12	実習における観察、記録、省察・自己評価						
13	事後指導① 実習内容の確認、実習の自己評価						
14	事後指導② 実習報告会で自分の実習を発表し、他の実習を理解し、自己をふり返り、新たな課題を明確にする						
15	まとめ						
成績評価方法							
提出物(実習日誌他)80% 実習報告会プレゼンテーション20% ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。							
教科書							
書名	著者	出版社	ISBNコード				
保育所・施設実習ハンドブック(購入済み)	小原敏郎他編著	ミネルヴァ書房	978-4-623-07587-4				
参考書							
書名	著者	出版社	ISBNコード				
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)							
・保育所・幼保連携型認定こども園における保育内容5領域をふり返り、保育課程を理解し、保育実践を総合的に捉える。 ・児童福祉施設等における養護内容、支援計画について復習する。							
教員との連絡方法 ※質問・相談など時間を要する場合は、教員に事前に連絡・確認を必ず取ってください。							
授業開始時に伝えます。							

授業科目名	保育実習Ⅱ				科目コード	E3023	
担当者	石橋 由美・深澤 悦子				履修区分	選択	
開講年次	4年	開講期	前期	実習時間	90時間	単位数	2
実習の概要・到達目標							
(概要) 保育実習Ⅰの保育所・幼保連携型認定こども園での実習をふまえて、保育実習Ⅱでは保育所・幼保連携型認定こども園で保育を実践し、保育士として必要な資質・能力・技術を習得する。部分実習に加え、半日・全日実習を行う。家庭と地域の生活実態にふれて、子ども家庭福祉ニーズに対する理解力、判断力を養い、子育てを支援するために必要な能力を養う。							
(到達目標) ①保育全般に参加し、保育技術を習得する。 ②子どもの個人差について理解し、多様なニーズへの対応の仕方を学ぶ。 ③保育の計画に基づいて指導計画を立案・実践し、観察、記録、記録に基づく省察・自己評価に取り組む。 ④家庭・地域社会との連携について具体的に学ぶ。 ⑤保育士の業務内容や職業倫理、子どもの最善の利益を具体化する方法について保育実践に結びつけて理解する。 ⑥保育所保育士になるための自己の課題を明確にする。							
実習先行要件(下記に示す科目の全てについて、単位修得または単位修得見込みの場合のみ履修可能)							
(単位修得済の科目) ・3年後期終了までに、告示別表1による教科目のうち、52単位以上取得していること							
(履修済の科目) ・保育実習Ⅰ・保育実習事前事後指導Ⅰ・保育実習事前事後指導							
履修における注意事項(受講ルールなど)							
実習スケジュール ※履修している学生に対して事前に説明があった上で、変更される場合があります。 7～8月 保育所・幼保連携型認定こども園における実習(12日) ・実習施設でのオリエンテーション ・実習参加 ・実習内容 1. 保育所・幼保連携型認定こども園の役割(養護と教育が一体となって行われる保育、社会的役割・責任) 2. 保育の理解(保育士の動き、保育所の生活の流れ、子どもの個人差に応じたかかわり) 3. 保育内容・保育環境(環境を通して行う保育、生活や遊びを通して総合的に行う保育) 4. 保育課程に基づく指導計画作成・実践・記録・省察、自己評価 5. 入所している子どもの保護者への支援、地域の子育て家庭への支援 6. 保育士の業務内容と職業倫理 7. 自己の課題の明確化 実習参加時には、大学教員による訪問指導を行う。							
成績評価方法							
実習施設での評価(70%)と提出物(保育実習日誌など)(30%)によって行う。							
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)							
実習施設でのオリエンテーションの内容を理解し、実習の事前準備を十分してください。							
教員との連絡方法 ※質問・相談など時間を要する場合は、教員に事前に連絡・確認を必ず取ってください。							
授業開始時に伝えます。							

授業科目名	保育実習事前事後指導Ⅱ				科目コード	E3024	
担当者	石橋 由美・深澤 悦子				履修区分	選択	
開講年次	4年	開講期	通年	授業回数	8回	単位数	1
授業の概要・到達目標							
(概要) 保育実習Ⅱでは、大学での学習と保育実習Ⅰ(保育所・幼保連携型認定こども園での実習)をふまえて、保育所・幼保連携型認定こども園での具体的体験を通してさらなる保育実践力を身につける。部分実習に加え、半日・全日実習を行う。そのために保育実習事前事後指導Ⅱでは、①実習に向かう構えをつくること、②実習記録や指導計画について具体的に学ぶこと、③実習をふり返り、保育所保育士になるための自己課題を明確にすることをを行う。							
(到達目標) ①保育実習の意義・目的を理解し、実習における自らの課題を明確にし、保育について総合的に学ぶ。 ②保育の計画、実践、観察、記録、省察、自己評価による保育の改善について、実践や事例を通して学ぶ ③保育士の専門性と職業倫理について理解する。 ④実習の事後指導を通して、実習を総括し、自己をふり返り、新たな課題と学習目標を明確にする。							
履修における注意事項(受講ルールなど)							
欠席をしないこと							
授業スケジュール ※履修している学生に対して事前に説明があった上で、変更される場合があります。							
回数	講義内容						
1	オリエンテーション、保育実習Ⅱの意義						
2	子どもの最善の利益を考慮した保育の具体的理解、保護者支援、地域の子育て家庭への支援						
3	保育所・幼保連携型認定こども園での実習の内容と自己課題の明確化						
4	保育実践力の育成(子どもの状態に応じた適切なかわり、保育の表現技術を活かした保育実践)						
5	保育課程に基づく指導計画作成と実践、観察、記録、省察、自己評価、保育の改善						
6	実習に向けて模擬保育会						
7	事後指導① 実習内容の確認、実習の自己評価						
8	事後指導② 実習報告会で自分の実習を発表し、他の実習を理解し、自己をふり返り、保育所保育士になるための新たな課題を明確にする。まとめ。						
成績評価方法							
提出物(実習日誌他)80% 実習報告会プレゼンテーション20% ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。							
教科書							
	書名	著者	出版社	ISBNコード			
	保育所・施設実習ハンドブック(購入済み)	小原敏郎他編著	ミネルヴァ書房	978-4-623-07587-4			
参考書							
	書名	著者	出版社	ISBNコード			
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)							
・保育実習Ⅰをふり返り、保育指針を理解し、保育実践を総合的に捉える。							
教員との連絡方法 ※質問・相談など時間を要する場合は、教員に事前に連絡・確認を必ず取ってください。							
授業開始時に伝えます。							

授業科目名	保育実習Ⅲ				科目コード	E3025	
担当者	島山 京子				履修区分	選択	
開講年次	4年	開講期	前期	実習時間	90時間	単位数	2
授業の概要・到達目標							
(概要)							
1 保育実習Ⅰでの施設実習をふまえ、児童養護施設等の社会福祉施設での実践により、保育士として必要な資質・能力・技術を習得する。							
2 家庭と地域の生活実態にふれ、保護者支援、家庭支援のための知識、技術、判断力の実践的力量を身につける。							
(到達目標)							
1 児童福祉施設等の役割や機能について実践を通して理解を深め、児童養護施設等において、養護技術を習得する。							
2 子どもと家族とのコミュニケーションの方法を具体的に修得する。							
3 地域社会に対する理解を深め、連携の方法について具体的に学ぶ。							
4 子どもの最善の利益を具体化する方法を学ぶ。							
5 保育士の業務内容や倫を具体的に学ぶ。							
6 保育士としての自己課題を明確化する。							
実習先行要件(下記に示す科目のすべてについて、単位取得又は単位取得見込みの場合のみ履修可能)							
(履修済み科目)							
・保育実習Ⅰ ・保育実習事前事後指導Ⅰ ・保育実習事前事後指導Ⅲ							
授業スケジュール ※履修している学生に対して事前に説明があった上で、変更される場合があります。							
7～8月 児童福祉施設等における実習(12日)							
・実習施設でのオリエンテーション							
・実習参加							
・実習内容							
1 児童養護施設等の養護活動に参加し、施設における支援技術を習得する。							
2 子ども(利用者)の個人差、ニーズについて理解し、対応の方法について習得する。							
3 地域との連携の在り方について、具体的に学ぶ。							
4 子どもの最善の利益への配慮を学ぶ。							
5 児童福祉施設の保育士としての職業倫理を理解する。							
6 施設実習を通して、施設保育士としての自己課題を明確にする。児童福祉施設等の役割と機能							
実習参加時には、大学教員による訪問指導を行います。							
成績評価方法							
実習施設での評価(60%)と施設実習の記録(40%)によります。							
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)							
実習施設でのオリエンテーションの内容を理解し、準備をしておきましょう。							
教員との連絡方法 ※質問・相談など時間を要する場合は、教員に事前に連絡・確認を必ず取ってください。							
質問等につきましては、メールで時間等について予め連絡・確認して下さい。							

授業科目名	保育実習事前事後指導Ⅲ				科目コード	E3026	
担当者	島山 京子				履修区分	選択	
開講年次	4年	開講期	通年	授業回数	8回	単位数	1
授業の概要・到達目標							
(概要) 保育実習Ⅲでは、保育実習Ⅰでの施設実習をふまえ、児童福祉施設等の具体的な体験を通して、実習を振り返り、施設保育士の専門性と職業倫理等を理解し、施設保育士としての実践的力量を身につける。							
(到達目標) 1 施設実習の意義と目的を理解し、実習における自らの課題を明確にし、実習する施設概要を理解する。 2 施設実習を通して、子ども、家庭、地域への理解を深める 3 施設の支援についての観察、記録および自己評価等による支援の改善について実践や事例をとおして学ぶ。 4 施設保育士の専門性と職業倫理について理解する。 5 実習の事前事後をとおして、実習の総括と自己評価を行い、施設保育における支援技術を習得する。							
履修における注意事項(受講ルールなど)							
<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業中の私語は禁止 ・ 携帯電話は使用禁止 ・ 配布資料は授業でのみ配布致します。 							
授業スケジュール ※履修している学生に対して事前に説明があった上で、変更される場合があります。							
回数	講義内容						
1	オリエンテーション、保育実習Ⅲの意義を理解する。						
2	施設全般の活動に参加し、支援技術を習得する。						
3	子どもの最善の利益を考慮した支援及び保護者支援について具体的に理解する。						
4	子どもの個人差等について理解し、対応方法について習得する。						
5	施設における援助計画を理解し、観察、記録の方法を習得する。						
6	施設保育士としての職業倫理を学び、対応方法について習得する。						
7	事後指導① 実習の総括と自己評価を行う。						
8	事後指導② 実習報告会で自分の実習を発表し、他の実習を理解し、自己のふり返り、施設保育士としての課題を明確にする。						
成績評価方法							
提出物80% 発表20%							
教科書							
	書名	著者	出版社	ISBNコード			
参考書							
	書名	著者	出版社	ISBNコード			
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)							
保育実習Ⅰをふり返り、施設保育については、実習施設について根拠法令等、多職種で連携して関わるため、他職種について理解、地域における福祉サービス等について事前準備を行いましょう。							
教員との連絡方法 ※質問・相談など時間を要する場合は、教員に事前に連絡・確認を必ず取ってください。							
学生の質問は歓迎。質問等につきましては、メールで時間等について予め連絡・確認して下さい。							

授業科目名	教職実践演習(幼・小)				科目コード	E3027	
担当者	杉山 直子・佛園 弘修				履修区分	必修	
開講年次	4年	開講期	後期	授業回数	15回	単位数	2
授業の概要・到達目標							
(概要) 本授業は、幼稚園・小学校教員の職を志して4年間学んできた大学での学びの集大成として位置づくものである。社会人、教員としての自己課題を明確にし、知識・技能を総合的にとらえて修得し、実践的な力の獲得をめざし、教職生活を円滑にスタートできることをめざすものである。							
(到達目標) 主として、①教師としての使命感、責任感、教育的愛情、②社会性や対人関係能力、③幼児児童理解や学級経営、④保育内容、各教科・教科外活動における指導力、以上4つの項目を中心に、課題を自覚し、必要に応じて不足をしている知識・技能を補い、その定着を図り、教師としての基礎的専門的力量を高め、教育現場に臨む準備をする。							
履修における注意事項(受講ルールなど)							
幼稚園教諭1種免許、小学校教諭1種免許を取得し、教員として4月以降働くことを想定して授業を行うため、教員として・社会人としての真摯な態度で受講すること。その際、履修カルテをもとに、これまでの学びを振り返るとともに、具体的・実践的な活動を行うため、よりよい教師になるように努力すること。							
授業スケジュール ※履修している学生に対して事前に説明があった上で、変更される場合があります。							
回数	講義内容						
1	学びの履歴の振り返り:履修カルテや実習日誌などにより振り返りをする。						
2	自己課題の明確化:履修カルテなどによる自己課題を意識化する。						
3	教職の意義の確認:学校や教員の役割や責務について集団で話し合う。						
4	教員の役割や責務の確認:教育現場経験者の講話を通して具体的に理解する。						
5	地域・家庭との連携の考察:授業や実習などの経験から話し合い、考察する。						
6	地域・家庭との連携の理解:教育現場経験者の講話を通して具体的に理解する。						
7	学級担任の仕事の理解:授業や実習などの経験から話し合い、考察する。						
8	学級経営に関する考察:教育現場経験者の講話を通して具体的に理解する。						
9	育ちあう仲間づくりの指導:生活集団を育てるための1年間の指導を考察する。						
10	学び合う仲間づくりの指導:学習集団を育てる指導計画を行う。						
11	学級集団づくり:学級集団における問題状況の対応の仕方を知る。						
12	一人一人のニーズに応じる指導:個々の子どもたちのニーズ理解と対応の仕方を知る。						
13	授業の構想:一人一人のニーズに応じつつ、学級全体で育ちあう授業を構想する。						
14	授業の実践:構想した指導案をもとに、模擬授業を行う。						
15	まとめ						
成績評価方法							
提出物50%、発表50% ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。							
教科書							
	書名	著者	出版社	ISBNコード			
	幼稚園教育要領、学習指導要領など						
参考書							
	書名	著者	出版社	ISBNコード			
	授業中に紹介する						
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)							
これまでの学びを振り返り復習をしておくこと、子ども・教師・教育に関するニュースや情報を得ること、授業での課題を準備することなどを適切に行いましょう。							
教員との連絡方法 ※質問・相談など時間を要する場合は、教員に事前に連絡・確認を必ず取ってください。							
各研究室にて行いますが、基本はオフィスアワーを利用してください。事前に相談があれば、その他の時間でも可能です。							

授業科目名	保育実践演習				科目コード	E3028	
担当者	石橋 由美・深澤 悦子				履修区分	※下記参照	
開講年次	4年	開講期	後期	授業回数	15回	単位数	2
授業の概要・到達目標							
(概要)							
保育に関する現代的な課題についての現状分析、考察および検討を行う。保育課題に対しては、問題解決のための対応や判断・方法の学びを深める。							
その際、ポートフォリオをもとに、保育士課程の科目の履修状況を確認し、保育士としての必要な知識や技能を修得したかなど、自らの学びをふり返る。							
(到達目標)							
1. 保育に関する現代的な課題について分析および検討し、他者と集団思考ができる。							
2. 保育に関する課題を発見し、解決のための対応について、自分の考えをプレゼンテーションできる。							
3. 保育士として必要な知識や技能を修得したことを確認する。							
履修における注意事項(受講ルールなど)							
・日常生活において、保育の現状について、関心をもつようにならねばならない。							
・適宜資料を配布しますので、ファイリングをすること。							
※コースによって「科目区分」が違います。よく確認してから。履修登録を行ってください。							
【小学校コース：選択科目、初等教育コース：選択科目、保育・幼児教育コース：必修科目】							
授業スケジュール ※履修している学生に対して事前に説明があった上で、変更される場合があります。							
回数	講義内容						
1	オリエンテーション						
2	ポートフォリオで学びをふり返る						
3	子どもの貧困と虐待について(調べ学習 1)						
4	子どもの貧困と虐待について(調べ学習 2)						
5	子どもの貧困と虐待についてのディスカッション						
6	子どもの貧困と虐待についての理解と対応のプレゼンテーション						
7	あそびと生活について(調べ学習 1)						
8	あそびと生活について(調べ学習 2)						
9	あそびと生活についてのディスカッション						
10	あそびと生活についての理解と対応のプレゼンテーション						
11	保育所・幼稚園・認定こども園・小学校との連携とカリキュラムについて(調べ学習 1)						
12	保育所・幼稚園・認定こども園・小学校との連携とカリキュラムについて(調べ学習 2)						
13	保育所・幼稚園・認定こども園・小学校との連携とカリキュラムについてのディスカッション						
14	保育所・幼稚園・認定こども園・小学校との連携とカリキュラムについての理解と対応のプレゼンテーション						
15	まとめ						
成績評価方法							
期末試験 60% 授業での発表 40%							
ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。							
教科書							
	書名	著者	出版社	ISBNコード			
参考書							
	書名	著者	出版社	ISBNコード			
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)							
これまで記録してきたポートフォリオを予習および復習に活用する。保育に関して多様な思考ができるようにすること。							
教員との連絡方法 ※質問・相談など時間を要する場合は、教員に事前に連絡・確認を必ず取ってください。							
オリエンテーションの際にアナウンスします。							

授業科目名	指導案実践研究				科目コード	E3029	
担当教員名	瀧口 美絵・深澤 悦子				科目区分	選択	
開講時期	2年	曜日・時限	前期	授業回数	15回	単位数	2
授業の概要・到達目標							
(概要) 教科内容や保育内容解釈し、授業構成の議論を中心に各教科に通じる指導の構想、計画・立案し、具体的に指導案の書き方を習得する。また児童教育や保育における生活やあそびを構想、指導案計画・立案し、具体的に書き方を習得する。さらに、立案した指導案をもとに、教材を開発し、あそびを開発するなどして、模擬授業や模擬保育を実践することで、学生同士の交流しながら主体的に学ぶ。							
(到達目標) ・小学校の各教科、領域の指導案を構想し、計画・立案する基礎を習得する。 ・幼児教育、保育における生活・あそびを構想し、指導案を計画・立案する基礎を習得する。 ・それぞれの指導案をもとにして、模擬授業や模擬保育を行うことができる。							
履修における注意事項(受講ルールなど)							
毎回の指導案作成が成績評価の中心になります。 自他の指導案はファイルして、いつでも活用(振り返り)できるようにしておいてください。							
授業スケジュール ※履修している学生に対して事前に説明があった上で、変更される場合があります。							
回数	講義内容						
1	指導案とは何か						
2	国語科の指導案作成と模擬授業						
3	社会科の指導案作成と模擬授業						
4	算数科の指導案作成と模擬授業						
5	理科の指導案作成と模擬授業						
6	生活科の指導案作成と模擬授業						
7	音楽科の指導案作成と模擬授業						
8	図画工作の指導案作成と模擬授業						
9	家庭科の指導案作成と模擬授業						
10	体育科の指導案作成と模擬授業						
11	道徳の指導案作成と模擬授業						
12	外国語活動の指導案作成と模擬授業						
13	総合的な学習の時間の指導案作成と模擬授業						
14	特別活動の指導案作成と模擬授業						
15	保育所・幼稚園における生活・あそびの指導案作成と模擬保育						
成績評価方法							
初回講義時に説明します。							
教科書							
	書名	著者	出版社	ISBNコード			
毎回、プリントを配布します。							
参考書							
	書名	著者	出版社	ISBNコード			
保育所保育指針および解説書		厚生労働省					
幼稚園教育要領		文部科学省					
小学校学習指導要領		文部科学省					
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)							
各教科・領域、生活・あそびの指導案作成の時間は限られていますので、それぞれの内容の予習・復習(宿題を含む)に努めるよう心がけてください。							
教員との連絡方法 ※質問・相談など時間を要する場合は、教員に事前に連絡・確認を必ず取ってください。							
担当教員に確認してください。							

授業科目名	保育の表現技術Ⅰ				科目コード	E3030	
担当者	林 俊雄 / 須崎 朝子				履修区分	※下記参照	
開講年次	2年	開講期	前期	授業回数	15回	単位数	2
授業の概要・到達目標							
(概要) 幼児の発達の特徴を踏まえた身体表現、音楽表現、造形表現、言語表現などの表現活動に係る教材等の活用・作成および保育の環境構成についての基本的な知識を習得するとともに、具体的な保育指導上のスキルを習得する。							
(到達目標) ①あそびを中心とした保育の内容を理解し、遊びを豊かに展開するために必要な知識とスキルを習得することができる。 ②身体表現を伴う遊びに関する知識とその指導スキルを習得できる。							
履修における注意事項(受講ルールなど)							
教員2名によるオムニバス授業であるので、授業の該当範囲の担当教員の指示に従うようにしてください。表現活動の実践や、教材の作成を行う場合があるので、動きやすい服装で受講してください。 実技の際は必ず運動着や体育館シューズ・運動靴を着用すること。 ※コースによって「科目区分」が違います。よく確認してから。履修登録を行ってください。 【小学校コース：選択科目、初等教育コース：選択科目、保育・幼児教育コース：必修科目】							
授業スケジュール ※履修している学生に対して事前に説明があった上で、変更される場合があります。							
回数	講義内容					担当者	
1	運動機能に関する子どもの発達の特徴					林 俊雄	
2	子どもの発達に沿った身体表現に関する知識及び指導スキル①					林 俊雄	
3	子どもの発達に沿った身体表現に関する知識及び指導スキル②					林 俊雄	
4	マットを使った身体表現①					林 俊雄	
5	マットを使った身体表現②					林 俊雄	
6	わらべ歌に合わせた運動遊び(身体表現)①					林 俊雄	
7	わらべ歌に合わせた運動遊び(身体表現)②					林 俊雄	
8	子どもの発達と音楽表現に関する知識と技術					須崎 朝子	
9	リミックによる表現					須崎 朝子	
10	身近な自然やものの音や音色に親しむ経験と保育環境					須崎 朝子	
11	人や声や音楽等に親しむ経験と保育環境					須崎 朝子	
12	子どもの経験やさまざまな表現活動と音楽表現を結びつける遊びの展開					須崎 朝子	
13	音あそび					須崎 朝子	
14	身体表現とリズムあそび					須崎 朝子	
15	まとめ					林 俊雄・須崎 朝子	
成績評価方法							
林 レポート 60%、平常の振り返りと課題の追求 40% 須崎 期末試験 60%、レポート 20%、授業内課題 20% ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。							
教科書							
書名		著者		出版社		ISBNコード	
必要に応じて配布する							
参考書							
書名		著者		出版社		ISBNコード	
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)							
林 授業後の課題、次の授業に対する予習や事前準備等については授業の中で担当教員がその都度指示します。 指示がない場合でも教員に質問し、達成すべき課題の指示を仰ぎ、積極的に授業にとり組むようにしてください。 須崎 毎回の授業感想文を復習として課すので、配布資料と感想文をまとめてファイリングしておくこと。							
教員との連絡方法 ※質問・相談など時間を要する場合は、教員に事前に連絡・確認を必ず取ってください。							
Eメールか直接研究室へ訪ねてください。							

授業科目名	保育の表現技術Ⅱ				科目コード	E3031	
担当者	國清 あやか / 影浦 紀子				履修区分	※下記参照	
開講年次	2年	開講期	後期	授業回数	15回	単位数	2
授業の概要・到達目標							
(概要) 幼児の心身の発達の特徴を踏まえながら、幼児期の表現活動に適した材料、活動内容、環境設定などの理解と共通教材・教具を開発する能力を高める。身体全体を使った造形表現や手の巧緻性を高める造形表現を中心にしながら、五感を育てる造形体験活動の重要性を実感させる。							
(到達目標) 1. 保育の内容を理解し、子どもの遊びを豊かに展開するために必要な知識や技能を習得する。 2. 身体表現、音楽表現、造形表現、言語表現等の表現活動に関する知識や技能を習得する。 3. 表現活動にかかる教材等の活用及び作成と、保育の環境構成及び具体的展開のための技術を習得する。							
履修における注意事項(受講ルールなど)							
実技演習の際には、汚れてもよい服装で出席すること。 配付資料は予備を準備しません。紛失した場合は各自の責任において補充すること。 ※コースによって「科目区分」が違います。よく確認してから。履修登録を行ってください。 【小学校コース：選択科目、初等教育コース：選択科目、保育・幼児教育コース：必修科目】							
授業スケジュール ※履修している学生に対して事前に説明があった上で、変更される場合があります。							
回数	講義内容					担当者	
1	子どもの発達と造形に関する知識と技術					國清 あやか	
2	ちぎる、切る、はる遊び					國清 あやか	
3	たたく、丸める、つまむ遊び					國清 あやか	
4	描く、ぬる遊び					國清 あやか	
5	身近な自然やものの色や形に親しむ経験と保育環境					國清 あやか	
6	感触やイメージ等に親しむ経験と環境構成					國清 あやか	
7	子どもの経験やさまざまな表現活動と造形表現とを結びつける遊びの展開					國清 あやか	
8	子どもの発達と絵本、紙芝居に関する知識と技術					國清 あやか	
9	子どもの発達と人形劇、ストーリーテリング等に関する知識と技術					影浦 紀子	
10	子ども自らが児童文化財等に親しむ経験と保育の環境					影浦 紀子	
11	子どもの経験やさまざまな表現活動と児童文化財とを結びつける遊びの展開					影浦 紀子	
12	ごっこや劇遊び					影浦 紀子	
13	さまざまな遊具や用具、素材や教材等の特性の理解と活用及び作成					影浦 紀子	
14	子どもの遊びやイメージを豊かにし、感性を養うための環境構成と保育の展開					影浦 紀子	
15	まとめ					影浦 紀子	
成績評価方法							
実技演習による作品・鑑賞カード 50%、レポート 50% ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。							
教科書							
書名		著者		出版社		ISBNコード	
適宜プリント配付							
参考書							
書名		著者		出版社		ISBNコード	
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)							
配付したプリントを基に復習をしましょう。							
教員との連絡方法 ※質問・相談など時間を要する場合は、教員に事前に連絡・確認を必ず取ってください。							
第1回目の授業でお知らせします。							

授業科目名	特別研究 I				科目コード	E3032	
担当者	子ども教育学科専任教員				履修区分	必修	
開講年次	3年	開講期	通年	授業回数	30回	単位数	2
授業の概要・到達目標							
(概要) 4年次の卒業研究に向けて、研究の基礎的方法について理解したうえで、自身の研究テーマを明確に意識し、研究計画を立てる。							
(到達目標) ①これまで学習したことをふまえて研究テーマを明確にすることができる ②研究テーマに基づき研究計画を立てることができる ③研究計画に基づき、先行研究の分析ができる ④特別研究 I の成果をまとめて発表を行うことができる							
履修における注意事項(受講ルールなど)							
各担当教員からアナウンスをします							
授業スケジュール ※履修している学生に対して事前に説明があった上で、変更される場合があります。							
回数	講義内容			回数	講義内容		
1	オリエンテーション			16	先行研究の収集③		
2	研究をすすめるとは			17	先行研究の収集④		
3	研究方法について①			18	先行研究の収集⑤		
4	研究方法について②			19	先行研究の検討①		
5	研究方法について③			20	先行研究の検討②		
6	研究方法について④			21	先行研究の検討③		
7	研究方法について⑤			22	先行研究の検討④		
8	研究テーマの設定に向けて①			23	先行研究の検討⑤		
9	研究テーマの設定に向けて②			24	成果発表会に向けた準備①		
10	研究テーマの設定に向けて③			25	成果発表会に向けた準備②		
11	研究テーマの設定に向けて④			26	成果発表会に向けた準備③		
12	先行研究の収集方法①			27	成果発表会に向けた準備④		
13	先行研究の収集方法②			28	成果発表会に向けた準備⑤		
14	先行研究の収集①			29	成果発表会①		
15	先行研究の収集②			30	成果発表会②		
成績評価方法							
講義の提出物 60%、成果発表要旨 20%、成果発表 20%							
教科書							
書名		著者		出版社		ISBNコード	
参考書							
書名		著者		出版社		ISBNコード	
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)							
各担当教員からアナウンスします。							
教員との連絡方法 ※質問・相談など時間を要する場合は、教員に事前に連絡・確認を必ず取ってください。							
各担当教員からアナウンスします。							

授業科目名	特別研究Ⅱ				科目コード	E3033	
担当者	子ども教育学科専任教員				履修区分	選択	
開講年次	4年	開講期	通年	授業回数	30回	単位数	2
授業の概要・到達目標							
(概要) これまでの大学での学びを踏まえ、子どもにとって、魅力ある教師・保育者とはどういったものなのか、また教師・保育者としての生き甲斐とは何かを探り、教師・保育者として働く自己の未来を具体的に思い描くことができるよう、ゼミ形式で学生同士の積極的な討論等を組織しつつ深めていく。							
(到達目標) ①理想の教師像・保育者像を明確にもつことができる ②教師・保育者としての自己の未来像を具体的にイメージすることができる ③実践報告・記録を的確に読み解き、批判的に検討して、自己の実践に生かすことができる ④自分自身が教師・保育者となった際に行う実践について、具体的なイメージをもつことができる							
履修における注意事項(受講ルールなど) 各担当教員からアナウンスします。							
授業スケジュール ※履修している学生に対して事前に説明があった上で、変更される場合があります。							
回数	講義内容			回数	講義内容		
1	オリエンテーション			16	地域社会との関わりについて③		
2	魅力ある教師・保育者について①			17	実践報告・記録の収集①		
3	魅力ある教師・保育者について②			18	実践報告・記録の収集②		
4	魅力ある教師・保育者について③			19	実践報告・記録の収集③		
5	教師・保育者の仕事の魅力について①			20	実践報告・記録の批判的検討①		
6	教師・保育者の仕事の魅力について②			21	実践報告・記録の批判的検討②		
7	教師・保育者の仕事の魅力について③			22	実践報告・記録の批判的検討③		
8	現在の教師・保育者の役割について①			23	実践報告・記録の批判的検討④		
9	現在の教師・保育者の役割について②			24	実践報告・記録の批判的検討⑤		
10	現在の教師・保育者の役割について③			25	実践報告・記録の批判的検討⑥		
11	保護者との関わりについて①			26	理想の教師・保育者像を考える①		
12	保護者との関わりについて②			27	理想の教師・保育者像を考える②		
13	保護者との関わりについて③			28	理想の教師・保育者像を考える③		
14	地域社会との関わりについて①			29	理想の教師・保育者像を考える④		
15	地域社会との関わりについて②			30	講義のまとめ		
成績評価方法							
講義の提出物 50%、発表 50%							
教科書							
書名		著者		出版社		ISBNコード	
参考書							
書名		著者		出版社		ISBNコード	
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど) 各担当教員からアナウンスします。							
教員との連絡方法 ※質問・相談など時間を要する場合は、教員に事前に連絡・確認を必ず取ってください。 各担当教員からアナウンスします。							

授業科目名	卒業研究				科目コード	E3034	
担当者	子ども教育学科専任教員				履修区分	必修	
開講年次	4年	開講期	通年	授業回数	30回	単位数	4
授業の概要・到達目標							
(概要) 専門領域に関わる中から、各自の関心、課題意識に基づいた研究テーマを設定し、その課題の意味づけを明確にもちつつ、適切な研究計画を立案し、その計画に基づいて研究を進め、最終的には卒業論文としてまとめる。							
(到達目標) ①専門領域に関わる中から、自身の研究テーマを設定することができる ②研究テーマに関する意味づけを明確にもつことができる ③実現可能な研究計画を立案し、それを遂行することができる ④卒業論文を執筆し、研究発表することができる							
履修における注意事項(受講ルールなど) 各担当教員からアナウンスします。							
授業スケジュール ※履修している学生に対して事前に説明があった上で、変更される場合があります。							
回数	講義内容			回数	講義内容		
1	オリエンテーション			16	具体的な研究⑥		
2	「特別研究Ⅰ」成果発表会の振り返り			17	具体的な研究⑦		
3	研究テーマの設定①			18	具体的な研究⑧		
4	研究テーマの設定②			19	具体的な研究⑨		
5	研究方法の検討①			20	卒業論文の執筆①		
6	研究方法の検討②			21	卒業論文の執筆②		
7	研究計画の作成①			22	卒業論文の執筆③		
8	研究計画の作成②			23	卒業論文の執筆④		
9	先行研究の分析①			24	卒業論文の執筆⑤		
10	先行研究の分析②			25	卒業論文の執筆⑥		
11	具体的な研究①			26	口頭発表に向けた準備①		
12	具体的な研究②			27	口頭発表に向けた準備②		
13	具体的な研究③			28	口頭発表に向けた準備③		
14	具体的な研究④			29	口頭発表会①		
15	具体的な研究⑤			30	口頭発表会②		
成績評価方法 卒業論文 60%、口頭発表要旨 20%、口頭発表 20%							
教科書							
書名		著者		出版社		ISBNコード	
参考書							
書名		著者		出版社		ISBNコード	
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど) 各担当教員からアナウンスします。							
教員との連絡方法 ※質問・相談など時間を要する場合は、教員に事前に連絡・確認を必ず取ってください。 各担当教員からアナウンスします。							

授業科目名	キャリア教育 I				科目コード	E3035	
担当者	杉山 直子				履修区分	必修	
開講年次	1年	開講期	後期	授業回数	8回	単位数	1
授業の概要・到達目標							
(概要) 大学で学ぶことの意味や目標を明確にし、自分が選んだ学部やコースにおける自己成長を図るために、様々な知識を得る。これからの社会で生きていくために、人生設計の重要性を知り、キャリア教育の本質を学び、自分自身が保育者・教育者になった場合に活用できるようにする。							
(到達目標) (1)キャリア教育とは何であるかを理解する。 (2)自分のキャリア形成を行なうために客観的に自己を分析し評価できる資質・能力を養う。 (3)キャリア教育を指導できる者として必要な知識・技能等を備える。							
履修における注意事項(受講ルールなど)							
8回中1回分は、進路デーの出席でカウントする予定です。							
授業スケジュール ※履修している学生に対して事前に説明があった上で、変更される場合があります。							
回数	講義内容						
1	高等学校までのキャリア教育の振り返りと大学でのキャリア教育について						
2	社会で生きるということ(所属する家族、仕事、労働、コミュニティ、国などと自分の関係性)と役割						
3	仕事をするということ(労働者の権利と義務)						
4	家族と生活をするということ						
5	地域コミュニティで生活をするということ						
6	国の中で生活をするということ						
7	キャリアを積むために						
8	進路デーで他者の生き方・キャリアの積み方をまなぶ 進路デーに参加し、自己のキャリアについて具体的な方向性を持つ						
成績評価方法							
提出物 80%、発表 20% ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。							
教科書							
	書名	著者	出版社	ISBNコード			
参考書							
	書名	著者	出版社	ISBNコード			
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)							
教員との連絡方法 ※質問・相談など時間を要する場合は、教員に事前に連絡・確認を必ず取ってください。							

授業科目名	キャリア教育Ⅱ				科目コード	E3036	
担当者	佐伯 陽				履修区分	必修	
開講年次	2年	開講期	後期	授業回数	8回	単位数	1
授業の概要・到達目標							
(概要) キャリア教育Ⅰを踏まえて、学習の拡大、深化を図る。現代社会における子どもの教育などを巡る問題を追及し合う。課題に取り組むことを通して、教育に関する知見を広げ、教育を支える実践的な力量の基礎を培う。また、社会の問題などについて考えることから、自分がどのように職業キャリアを積んでいくのか、そのためには何をなすべきかを決め、ビジョンをもてるよう職業観を育む。							
(到達目標) ① キャリア教育に関する知見を理解する。 ② キャリア教育の基礎を獲得する。 ③ キャリア教育の指導者としての資質を向上させる。							
履修における注意事項(受講ルールなど) ・毎回、講義資料プリントを配布します。止むを得ず講義を休む場合は、コピー等で入手すること。 ・最低限の学習のルール(私語禁止・携帯禁止・飲食禁止など)は守ること。目に余る場合は、退出してもらいます。 ・各講義時間の最後に簡単な質問や課題を出します。これを通して出席確認とします。							
授業スケジュール ※履修している学生に対して事前に説明があった上で、変更される場合があります。							
回数	講義内容						
1	講義内容のガイダンス、キャリア教育における言葉の意味と学校教育に導入された経緯 など *講義形式						
2	自己理解:自分をみつめる(“自分の夢や志”づくり)				*個別の作業中心		
3	現代社会の労働環境を考える(賃金, 社会保障, 労働形態など)				*講義形式とグループワーキング		
4	現代の教育課題(教員, 子ども, 親, 地域社会の問題)				*講義形式と個別の作業		
5	ニュース記事から学ぶ教育課題				*グループワーキング中心		
6	社会の価値観と望まれる教師像				*グループワーキング中心		
7	教育課題に対するレポートづくり(テーマ別)				*個別の作業		
8	進路デー				*外部講師		
成績評価方法							
レポート70% 毎回実施する課題へのレポート30% ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。							
教科書							
書名		著者		出版社		ISBNコード	
参考書							
書名		著者		出版社		ISBNコード	
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)							
・配布資料と授業記録ノートを復習する。							
教員との連絡方法 ※質問・相談など時間を要する場合は、教員に事前に連絡・確認を必ず取ってください。							
メール:yousaiki@hcu.ac.jp							

授業科目名	キャリア教育Ⅲ				科目コード	E3037	
担当者	林 俊雄				履修区分	必修	
開講年次	3年	開講期	後期	授業回数	8回	単位数	1
授業の概要・到達目標							
(概要) キャリア教育Ⅰ及びⅡを踏まえ、人間にとっての労働を基本的人権として保障している労働法についてその意義と内容を理解するとともに、教育職・保育職に就くことの意義を現場の実態を参照して総合的に考察するようにする。これらを基にして、希望する職に向けての具体的なスケジュールと目標を定かにしていく。							
(到達目標) ・労働法の目的と内容を理解することを通して、人間にとっての労働・職業の意義を理解する。 ・教育・保育の現場における具体的な実態を基にしながら、教育職や保育職に求められる必須の能力、知識、スキルなどについて総合的に理解することができる。 ・教育・保育の現場での教師や保育者の働きかけや子どもたちの反応を実際に観察したり、現役で働く人の語りを聞いたりしながら、職に就くための準備とスケジュールに対して具体的な見通しを持てるようにする。							
履修における注意事項(受講ルールなど)							
これまでに行った教育実習や保育実習で把握した自分の成果や課題を元に、自己PRや就職後に取り組みたい課題についてまとめられるように整理しておくこと。							
授業スケジュール ※履修している学生に対して事前に説明があった上で、変更される場合があります。							
回数	講義内容						
1	オリエンテーション、労働法の意義と意味について①						
2	労働法の意義と意味について②						
3	求められる教師像・保育者像についての集団討議と考察①						
4	求められる教師像・保育者像についての集団討議と考察②						
5	教育現場・保育現場での授業や保育の観察と考察①						
6	教育現場・保育現場での授業や保育の観察と考察②						
7	教育現場・保育現場で働く人との交流と						
8	本授業の総括と4年次での就職活動に向けたスケジュールづくり						
成績評価方法							
レポート 60%、討議や観察の内容と積極的なかわり 40% ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。							
教科書							
書名	著者	出版社	ISBNコード				
適宜プリントを配付します。							
参考書							
書名	著者	出版社	ISBNコード				
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)							
社会事象として教育や保育を捉えられるように意識しながら、常日頃から多様な情報を得られるように努力し、資料整理に努めるようにしてください。							
教員との連絡方法 ※質問・相談など時間を要する場合は、教員に事前に連絡・確認を必ず取ってください。							
メールか直接研究室へ訪ねてください。							

授業科目名	キャリア教育Ⅳ				科目コード	E3038	
担当者	白神 聖也				履修区分	必修	
開講年次	4年	開講期	前期	授業回数	8回	単位数	1
授業の概要・到達目標							
(概要) キャリア教育Ⅰ～Ⅲを踏まえ、教育・保育の現場で社会人として共通に必要な最低限の常識を学ぶとともに、採用に向けて必要な諸能力を身につける。							
(到達目標) ・社会人として必要とされる最低限のマナーやルールを身につける。 ・採用に向けて必要な諸能力を身につける。							
履修における注意事項(受講ルールなど)							
実際の場面でもそのまま生かせるように常に真剣な態度で授業に臨むことが大切です。							
授業スケジュール ※履修している学生に対して事前に説明があった上で、変更される場合があります。							
回数	講義内容						
1	履歴書, 志望理由書の書き方						
2	面接の受け方, 自己紹介・スピーチの仕方						
3	小論文の書き方						
4	社会人としてのマナー1(敬語, 言葉遣いなど)						
5	社会人としてのマナー2(手紙, メール, 電話応答, 名刺交換など)						
6	人権, ハラスメント, 保護者対応ほか						
7	模擬授業・模擬保育1						
8	模擬授業・模擬保育2						
成績評価方法							
レポートなど 100% ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。							
教科書							
	書名	著者	出版社	ISBNコード			
	なし						
参考書							
	書名	著者	出版社	ISBNコード			
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)							
特に授業後には、内容に関係のある書籍に目を通しておいください。							
教員との連絡方法 ※質問・相談など時間を要する場合は、教員に事前に連絡・確認を必ず取ってください。							
担当教員の研究室に来てください。							